新たな広告媒体 タクシーに注目

ボンネットやドア、トランクに広告を大きく載せるタクシーが、札幌近郊で増えている。不況で利用客が回復せず、各社の新たな収入源として広告への期待は大きい。ゲームやアニメのキャラクターをデザインしたタクシーは、車体指名で予約が入るほどの人気だ。広告主からも、各地を走り回るタクシーが広告媒体として「効果あり」と注目が集まっている。

（石垣総静）

1

2

3

1まこと交通が8月から掲載を始めたマレーシアの広告2人気ゲーム「バイオハザード」の広告を載せた長栄交通のタクシー

「1台当たりの売り上げはバブルのころの半分以下。回復する見込みのない中で、まとまった金額が入る車体広告は収入として大きい」。札幌市白石区のタクシー会社まこと交通の林公彦専務はこう話す。同社は、今年8月下旬から、マレーシア観光をPRする広告を前後のドア計4枚に載せたタクシー39台を札幌市中心に走らせている。

この広告はマレーシア大使館が全国で展開。北海道でも、タクシー会社各社が加盟するハイヤー協会を通じて、広告を載せる会社を募ったところ、4社が手を挙げ、計120台が集まった。林専務は「売り上げが減っているのはどこも一緒。大使館という安心できる広告主だから、ためらいなく掲載に踏み切った」。

広告費を無料にしてでも、載せることで、運賃収入を改善させようとする会社もある。長栄交通（札幌市北区）は、今年6月から、大手ゲームメーカーの人気ゲーム「バイオハザード」の主人公などアニメのキャラクターで車体全体をくるむラッピングタクシーの運行を始めた。現在、計7台が走っており、デザインの印象の強さから、国内だけでなく、インターネットを通じて国際的にも知られる存在となった。

同社は広告主からお金を取らない。車体広告はシールを貼り付けるのだが、作業はすべて社員が行う。「ファンは、車体指名で予約してくれる。1日の売り上げをみても、普通の車両と比べ、ラッピングタクシーの方が1万円は高い」（同社）という。広告費を取らなくても、十分に経営改善の効果が見込めるのだ。

車体指名で予約の人気

企画した同社の竹内紀仁営業課長(43)は「大人が本気でふざけたら、こんなことができると示したかった。今後も、次々と新たなラッピングタクシーを走らせ、消費者に、この会社は何かするかも、という驚きを提供し続けたい」。

タクシーへの車体広告は1999年、屋外広告物法の改正に伴い、都道府県や政令市がそれぞれ屋外広告物条例を定め、管理している。

札幌市の場合、札幌市屋外広告物条例で、広告の大きさや張る位置を指定。車体全体を覆うラッピングタクシーの場合、札幌市に事前にデザインを提出し、デザイナーや大学教授でつくる市のデザイン審査会で「広告内容は適切か」「都市景観を損ねないか」などを基準に、意見を聞く手順を踏まなければならない。加えて、ラッピングタクシーは市への申請料として1台につき1万800円を支払う必要がある。

広告としては適切と判断できても、無用なトラブルを避けるため、掲載に慎重なタクシー会社もある。マレーシアの広告で、掲載を見送ったある会社は「確かに収入は欲しいが、酔客や外国に反感を抱く人らと、どんなトラブルになるか分からない。運転手の安全を考えると、慎重になる」と言う。

無料掲載でも集客に貢献

車体広告を取り扱う広告会社の担当者は「最近、ラッピングタクシーに関する問い合わせは増えている。既存の広告にはない各地をくまなく回る機動力は、広告媒体として、発展性はまだまだある」と話している。

4

5

3今年6月に行われたイベント宣伝用のラッピングタクシー4ご当地キャラ「リトルベリーズ」を車体全体に描いたタクシー5人気アニメ「エヴァンゲリオン」が描かれた車体（いずれも長栄交通）

徐々に採用する会社が増えているタクシーの車体広告について、北海学園大の下村直樹准教授(38)＝広告論＝に聞いた。

安い費用 高い効果 広告主には魅力的

タクシーに広告を載せる最大の魅力は、走行中、停車中問わず、どこでも見ることができる点です。看板と違い、広告自らが移動してくれるので、その広告に興味を持つ人と接触できる確率はぐっと上昇します。

現在の広告主は、費用対効果を特に意識しています。一定の広告費で、いかに消費者に商品の魅力を訴えることができるのかと考えた時、たくさんの人に見られるけど、費用のかかるテレビCMより、商品を欲しがる人の目に触れる機会が多く、費用も安く済む車体広告が魅力的に映るのです。

背景には、テレビや新聞など既存の大手メディアを通じた広告だけでは、消費者に商品の魅力は届かないと考える、広告主の危機感があります。インターネットだけでなく、バスや市電、タクシーなど、商品に応じて、最適な広告手法を求める風潮は、今後も変わらないでしょう。

タクシーの車体広告は、まだまだ発展途上です。タクシー会社の運賃収入以外の収入源確保のためにも、広告を載せる会社は増えると思います。ですが、どの会社も広告を載せて走る風景が一般化してしまうと、今のような驚きや、インパクトは薄れてしまう危険性があります。その点で、先駆者がメリットを総取りできる市場と言うこともできます。